

呉市立宮原中学校 第1学年 国語科学習指導案
単元名：「音読のすすめ」リーフレットを作ろう
「脳の働きを目で見えてみよう」

指導者 呉市立宮原中学校
三浦 睦美

- 1 日 時 平成25年 10月 9日（水）第5校時（13時50分～14時40分）
- 2 場 所 1年 2組 教室
- 3 学 年 第1学年2組（男子11名 女子 10名 計 21名）

単元について

本単元は、主として中学校学習指導要領国語科第1学年の指導事項、「C読むこと」の次の内容を受けて設定されている。

「C読むこと」

- (1) イ 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。
- (1) エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。

本単元で付けた力は、文章と図表との関係を考えながら、目的や必要に応じて文章を要約する力、文章中の中心的部分と付加的部分や、事実と筆者の意見を区別して読む力である。

本教材は、「脳の働き」ということについて、図表を駆使して視覚的にも分かりやすく説明した文章である。まず、文章の展開は、「脳の各部分の働き」→「各部分の働く様子」→「脳の活性化の効果」という前後のつながりに飛躍のない展開になっている。さらに、生徒が段落相互の関係をとらえる手がかりとして、二つ目と三つ目の意味段落の冒頭に問題提起が配置されている。また、接続表現や順番を表す言葉が効果的に使われたりしていることから、文章全体の構成や論の展開を分かりやすく捉えることのできる教材である。

次に文末表現について、「～しています」、「～していません」などという事実を表す部分と、「～考えられます」、「～でしょう」という筆者の考えを表す部分が明確に区別して書かれているため、事実と意見を区別して読む力を養うのに適した教材でもある。

そして、この文章の特徴でもある、脳の構造が視覚的にはっきりと分かるような図や、実験の結果などを示した表が随所に取り入れられている。これらの図表と文章の関係、筆者の意図やその効果について考えさせることのできる教材であり、目的や意図に応じて、情報を取り出す力をつけるのにふさわしい教材である。

調査結果からみる課題

【 誤答分析から 】

- 平成20年度全国学力・学習状況調査 小学校6年国語³一 （平成25年7月実施）
正答率 43.9%（全国平均 39.2%）

(1) 問題の概要

「図書館だより」から、6年生が読書相談をすることができる曜日と時間帯を書く。

(2) 出題の趣旨

目的に応じて必要な情報を取り出し、整理することができるかどうかをみる。

(3) 誤答分析

問題文の中に含まれている「相談者が6年生」という情報を捉えていない。また、資料に載せられている「読書相談日は5・6年生→金曜日」、「図書館が開いている曜日・時間が、火曜日から金曜日は午前9時から午後8時まで」という情報と関係付けて整理できていない。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

様々な資料から必要な情報を収集し整理し、目的に応じて活用するといった情報活用にかかわる能力を高めるために、次のようなステップで指導をする。

- ① 文章の特徴を理解し、論の展開の仕方や文章の書き方に注意して読ませる指導をする。
 - ・「問い」と「答え」の関係に注目し、段落のまとめ（意味段落）を考えさせる。
 - ・「接続語」や「指示語」を手がかりに、段落のキーセンテンスを押さえ、その文をもとに要点をまとめさせる。
 - ・各段落の要点をとらえながら、段落のまとめに分けさせる。
- ② 図表と文章の関係、図表の効果を考えながら、筆者の意図を読ませる。
 - ・文章と図表の関係に注目し、その役割や効果について考えさせる。
 - ・グループ学習の中で、なぜ筆者はその図を使ったのか、示す順はこれでよいのかなどについて、根拠を持って説明させる。
- ③ 目的や意図に応じて、自分の考えをまとめるとともに、その考えを広げたり、深めたりする指導をする。
 - ・6年生に読んでもらうリーフレットを作るという目的意識を持たせ、筆者の論の展開の仕方や、図表の示し方を自分がリーフレット作りをする際の参考にさせる。
 - ・必要な情報を資料から取りだし、効果的にまとめる手順を指導する。

(2) 研究主題とのかかわり

本年度の本学区の研究主題「自主的に学び、表現できる児童生徒の育成 ～学力向上のための授業の工夫・改善を通して～」を受け、国語科では目的意識を持って学習に取り組み、説明的な文章の読みを定着させたいと考える。そして、そこで学んだ力を生かして自分の意見を書く力をつけたと考えている。ペア学習・グループ学習の中で、自分の考えを表現する場面を設定し、考えを練り上げ、深めさせたいと考える。

(3) 単元を貫く言語活動について

本単元の学習の最後に『音読のすすめ』リーフレットを作ろう」という言語活動を設定する。（関連：言語活動例（2）イ「文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと」）「脳の働きを目で見よう」では、図表を使いながら音読が効果的であることを分かりやすく説明している。この言語活動は、本教材の中で紹介された音読の効果について、小学6年生に紹介したいことをリーフレットにまとめるものである。自分たちよりも1年後輩の小学6年生に分かりやすく伝えるためには、本文をそのまま用いるのではなく、より簡潔にまとめ、分かりやすく書き換える必要がある。そのためは、文章の構成や展開などについて、より工夫して書く必要が出てくるし、的確に要約ができなければならない。小学6年生に伝えるためのリーフレットを作るという活動は、思考を深め、付けたい力を身に付けさせる言語活動であると考えられる。

単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- 文章と図表の関連を捉えながら、説明の文章を読もうとする。（国語への関心・意欲・態度）
- 説明されている事実や考えと図表との関係を整理し、文章の内容を捉えられる。（C読むこと（1）イ）
- 文章の構成や展開を捉え、自分の考えをもつことができる。（C読むこと（1）エ）
- 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との違いを理解し、語感を磨いている。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（イ））

【単元の評価規準】

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 文章と図との関連を捉えながら、説明の文章を読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続語や指示語、「問い」と「答え」の関係などをもとに文章の構成、展開について自分の考えをもっている。(1)エ 文末表現をもとに事実と筆者の考えを区別して読んでいる。(1)イ 文章中から適切なキーワードを抜き出し、問題提起に対する答えを図示している。(1)エ 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との違いを正確にとらえ、理解することができる。(1)イ(イ)

指導と評価の計画

(全8時間 本時は4/8)

次	学習内容(時数)	関	読	言	評価規準	評価方法
一	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しを持って全文を通読し、本文の概要をつかむ。 「言葉の力 事実・推測・意見を区別する」(P231～233)を読んで言葉の働きを確認する。(1) 	○			<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の見通しをもち、文章の内容に興味・関心を示している。 	ワークシート 観察
二	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落の書き出しを手がかりに、本文を3つの意味段落に分け、段落の内容を理解する。(1) 		○		<ul style="list-style-type: none"> 接続語や指示語、「問い」と「答え」の関係などをもとに文章の構成、展開について自分の考えをもっている。 	ワークシート 発表
	<ul style="list-style-type: none"> 問題提起に対する答えを、キーワードを使ってまとめる。(1) 		○		<ul style="list-style-type: none"> 文章中から適切なキーワードを抜き出し、問題提起に対する答えをまとめている。 	ワークシート 観察
	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の説明を「事実」と「意見」に読み分け分け、表にまとめる。(1)(本時) 		○		<ul style="list-style-type: none"> 文末表現をもとに事実と筆者の考えを区別して読み取っている。 	ワークシート 観察
	<ul style="list-style-type: none"> 図表と文章との関係を捉える。(1) 		○		<ul style="list-style-type: none"> 文章と図表から分かることを見つけ、その関係についても気付いている。 	ワークシート 観察
三	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことを伝えるために、情報を取り出してリーフレットを作成する。(2) 	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 本教材の内容に興味をもって活動に取り組んでいる。 文章と図表から分かることを見つけ、その関係についても気付いている。 文章を書く際に、適切な語句を選んでいる。 	ワークシート 観察
	<ul style="list-style-type: none"> 作成したリーフレットをグループで推敲し、完成したものをお互いに評価し合う。(1) 		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 文章と図表から分かることを見つけ、その関係についても気付いている。 文章構成や展開を捉える上でのポイントを理解している。 	ワークシート 観察

本時の学習

(1) 本時の目標

○ 図2～9についての説明を「事実」と「考え」に分け、内容を読みとることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意点 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断される児童 生徒への手だて)	評価規準 (評価方法)
1 本時の目標の確認と復習 (5 分)		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りをする。 ○ 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 本時のめあて 文末表現を手がかりに「事実」と「考え」を読み取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起し、本時は「事実」と「考え」を見分けて、まとめることを伝える。 	
2 展開 (35 分)		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式段落⑧～⑬を音読する。 ○ ワークシートを使って、事実(図から読みとれること)が書かれている所に印をつける。 ○ ワークシートを使って、図を根拠に、筆者の考えが書かれている所に印をつける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 自己との対話する (自力解決) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを使って、図2～7についての、事実と筆者の考えを表に整理し、グループで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 自分の考えを整理する。 (集団解決) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各段落ごとの事実と筆者の考えをグループごとにまとめ、それを交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 互いの考えを共有する。 (集団解決) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・事実(図から読み取れること)が書かれている所に印をつけながら読ませる。 ・図を根拠に、考え(筆者の推測や意見)が書かれている所に印をつけさせる。 ◆文末表現を手がかりに、「～しています」、「～していません」などという事実を表す部分と、「～考えられます」、「～でしょう」という考えを表す部分に分ける。 ◆わからない場合は教科書(P231)を参考にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・事実としての、脳の様子の説明を読み、大脳の4つの部分のどこが活発に働いているか、○をつけさせる。 ・脳の様子を表にまとめさせる。 ・筆者の考えの部分を表にまとめさせる。 ◆先に印をつけた事実と考えの部分を参考にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで担当の段落に書かれた事実と考えを1分程度で発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図2～7についての説明を、事実と筆者の考えとに区別して整理している。 (観察・発言・ワークシート) A 文末表現に注意して、事実と考えを区別でき、筆者がなぜそう考えたかも発言できる。 B 文末表現に注意して、事実と考えを区別できる。
3 まとめ (10 分)		

生徒のまとめ例

①段落：事実は音楽を聴くと聴覚野のみが活性化することです。それに対しての筆者の考えは他の部分が休まるので、音楽を聴くと脳がリラックスすることです。

- 本時のまとめを発表する。
- 次時の学習を確認する。

- ・ 評価問題は単元の終了後に行う。
- ・ 本時にまとめたことに対する自分の考えを書いてくることを家庭学習とする。
- ・ 自己評価カードに記入する。